

今後の練習のご案内

6月 12日 (日)	12:00 ~ 15:00
7月 17日 (日)	12:00 ~ 15:00
7月 24日 (日)	12:00 ~ 15:00

千寿本町小学校 スリッパ持参

参加費:1000円 マスク着用

(7月は参議院選挙があるため、
7月前半は学校が使えません)

楽譜の訂正と変更

「時代」

- ① 6ページ最後の小節と7ページの1小節
め(34、35小節) = アルトの歌詞「U
h」を「ルルル」に変更。
- ② 40小節(7ページ2段目2小節目) 男声
= 2つ目のレの音をドに変更。
(ファドラになります) (youtubeの音と

り直っています)

- ③ 30小節(6ページ4段目の最初)、50小節
(8ページ2小節目) アルトの音「シシラ
ラ」に。(音取りCD・youtubeは直って
います)
- ④ 61小節、66小節(8ページ3・4段目)
アルトの音 = 「レレドド」。(音取りCD・
youtubeは直っています)

・・・Adagioの歌い方・・・

2ページ、4ページの「むねのおくに」「まぶ
しいほどに」「かがやいてる」、3ページ「L
a L a L a」ですが、楽譜では下記の様にな
っています。



このリズムは、原曲(弦楽)のリズムのまま
なのですが、細かい音符(3/2分音符)が歌
いにくくなるので、

「むね」のリズムを半拍前に歌い、下記のようなリズムで歌います。



音取りCD・youtubeは、歌いやすいリズムになっています。練習時にも説明します。

陶山先生から

皆さん、お元気ですか？

あっという間に6月になりました。すでに暑い日が続いてますね。

毎年のことではありますが、6月の終わりから一か月の梅雨があつて、そのあと、暑い暑い夏がやってきます。

コロナもひと段落して、野外ではマスクはつけなくてもよくなりましたね。でも、日本人は生真面目というか、マスクを外さない人がほとんどのようです。

夏はそれでなくても熱中症の危険があります。臨機応変に対応してください。

今月号はスペースがないようなので、今回はここまで。

今日も楽しく歌いましょう。

田辺先生から

皆さん、こんにちは。お元気ですか？

私はつい先日、鎌倉に行ってきました。北鎌倉駅から円覚寺、東慶寺（残念ながら工事のため入れず）、浄智寺、あじさいで有名な明月院、建長寺、八幡宮まで歩きました。その後は江ノ電で長谷寺、由比ヶ浜へ（海を見るのが好きなので）。あじさいは、色づいているものが少なく、これが見頃の頃は一面青系になるのだろうか・・・と想像していました。ですが花菖蒲は綺麗に咲いていましたよ。八幡宮や長谷寺は小学生・中学生の集団も多く、車も渋滞。北鎌倉は学生の集団はいませんが、女性のグループ・ご夫婦・一人散策の方でやや人が多かったです。一人で歩いている方をみると、外なのに、一人なのに皆さんマスクをしっかりとつけているのです。ん～、と

いう私もマスクしていましたが。この日は2万歩近く歩いて、よい運動になりました。鎌倉って遠すぎず、近すぎず・・・いいですね。さて、熱中症に気をつけて、今月も元気に出しましょう。

団長のコーナー

今回は古代 5 世紀のユダヤ人と倭国の関りでしたがDNA鑑定から見た日本人とユダヤ人の関係を見てみましょう。

日本人のルーツを遺伝学的に研究した、ウイルス学者の崎谷満氏の研究結果です。

*世界では珍しい古代血統であるY染色体のD系統が日本人には多い。

*DNAにおいてY染色体D1という遺伝子が日本人とユダヤ人とは大変よく似ているのです。古代に太秦に住み着いたユダヤ人が各地に流れ次第に日本人と混血し同化してきたのではないのでしょうか。

今回は戦争中のユダヤ人と日本との関りを見てみましょう。

杉原千畝といえば 6,000 人のユダヤ人を救った人物として、ユダヤ人から尊敬されている人物です。

1985 年にイスラエル政府から「諸国民の中の正義の人」として勲章が送られました。

当時ソ連とドイツが密約を結びポーランドを分割することにしました。1939 年 9 月 1 日にポーランドに攻め込んだのです。たちまち占領されてユダヤ人狩りが始まりました。

杉原は隣のリトワニアのカウナスの日本領事館の領事代理として赴任していました。

1940 年 7 月 18 日の朝から大勢のユダヤ人が領事館に押し寄せてきました。皆シベリヤ鉄道でウラジオストックに行きさらに 8 月中には領事館を閉めるようにソ連から要求されているので時間がありません。

本を通過してアメリカに行くためのビザをもらうためです。

外務省からはビザの発行は出来ないと云って

きたが、多くのユダヤ人の姿を見て杉原は発行を決断したのです。それからは毎日朝食後から昼飯は抜いて夜まで毎日ビザを記入し続けたのです。当時は全て手書きで名前のスペルを間違えない様にしながら書き続けたとのことです。

ビザ発給は7月29日から8月28日までの1か月間でした。

この間に発行した日本通過ビザは2,000枚以上でした。

1枚に家族の名前も記入するので約6,000人のユダヤ人の命を救ったと云われています。

杉原は外交官といってもその堪能なロシア語を生かしてソ連の情報を日本の外務省に届けることを主な任務としていました。インテリジェンス・オフィサーです。

スパイではなく各国大使館や要人との関係を作り其処から重要な情報を本国に電報で伝える役目でした。

リトアニアの領事館を閉めてから杉原はプラハの大使代理に任命されました。

ビザ発給の件は全く問われなかった。

世間では杉原千畝の活躍だけが取り上げられていますが、満州関東軍の活躍は全く知らされていません。日本軍は残虐だとばかり云われ戦後の教育では悪いことばかりが云われています。しかし実際はどうだったのか！

次号ではその辺の具体的事実を報告します。

ホームページ

あだちフレンズハーモニーのホームページには、過去の「月刊あだフレ」、今後の練習日、音取り音源 (youtube)、過去の演奏等が載っています。

また練習日記には、その日に練習した内容が載っています。復習に是非ご活用ください。

<http://adafre.web.fc2.com/index.html>



月刊あだフレ 第156号 2022. 6. 5.発行

